

市政を問う 一般質問

一般質問とは

議員が市政全般にわたり、市長や教育長などに質問をし、考え方をたずねることをいいます。適正な行政運営を行う上で、その役割は重要です。

ここでは、23人の議員からの質問のうち、1人3件までその要旨を掲載しました。

(フォ) = フォーラム小平 (共産) = 日本共産党市議団
 (政和) = 政和会 (緑ネ) = 緑・生活者ネット
 (公ク) = 公明党小平元気クラブ (市民) = 市民クラブ

行政一般

**人口増と新興住宅の広がり
市のサービスは追いつけるか**

齋藤 敦議員(フォ) 生産年齢人口等と比較して、老年人口がふえているが、この傾向が続くと、行政サービス等による影響を与えるか。

新興住宅はかつての住宅地以外の地域にも広がっている。学校など地域に根差した行政サービスは十分供給できるのか。かつては20万人程度の人口想定があったが、現在の想定と市のサービスについて課題は。

市長 厳しい財政状況が想定されるが、変化に応じた行政サービスが展開されると考える。通学区域の調整など、柔軟な対応が有効と考えている。現行計画の想定は17万4千人で、時代の変化に対応した地域づくりが課題と考えている。

小平らしさとは何か

真鍋貞樹議員(フォ) 小平市は個性のイメージが強い。各種政策を進める上で、他の自治体の動向を見きわめつつ、無難に進めていくことからきていると思うが、あるときは大胆に踏み込んでいくことも必要な時代と考える。従来の考え方を考え直す。新しい長期総合計画を練り上げていくがチャンスである。計画をつくり上げていく上で、小平らしさをつくっていくためには何が必要かをまず考えていくべきと思うがどうか。

市長 緑を含めた環境や、人材を含めた資源等が、小平らしさを形づくっていると考えている。

さまざまな計画策定で培った手法を用いて、小平らしい計画策定の仕組みを考えており、絶えず小平らしさを意識し、小平らしい計画をつくっていききたい。

構造改革特区の活用が小平市でできないか

永田政弘議員(政和) 政府が構造改革特区の設置を打ち出し、その意向を受け、全国からさまざまな提案が出されている。構造改革特区の認識は。小平市で活用が考えられるのか。

検討をしたことはあるのか。今後、検討できないか。**市長** 基本的には歓迎すべきものと考えている。今後の状況の推移を見守りながら対応していきたい。検討したが、しばらく各庁の反応等を考慮する必要があると判断している。長期的かつ多角的な視点に立ち、手法や影響も含めて検討していきたい。

構造改革特区とは

特定の地域に限定して規制緩和を実施し、その地域の構造改革を実現していく制度のこと。

小平市は構造改革特区をどのように活用していくか

育藤 進議員(フォ) 構造改革特区は、NPOによるボランティアでの移送サービスにおけるマイカー利用や、保育所と幼稚園の併設施設で児童を一緒に保育する幼保合同保育等、規制に縛られて十分な効果が上げられないと見られる制度や施策を改善するチャンスである。真の地方分権を実現していくために

自治体から声を上げなければいけないと考えるが、市として構造改革特区をどのようにとらえ、構想の提案も含め、どのように活用していくつもりか。

市長 基本的には歓迎すべきものと考えているが、現在の市の財政状況等も含め、しばらく全国からの提案内容や各自治体の反応も考慮する必要があると判断している。今後は情報収集とともに、長期的かつ多角的な視点に立ち、手法や影響も含めて検討していきたい。

交通不便地域解消を

鳥村幸子議員(共産) コミュニティバスの試行運行ルートにならなかつた、交通不便地域の解消について、市の姿勢を問う。交通不便地域の具体的な把握はどうか。

交通不便地域の解消策の選択肢としては、何があるか。**市長** バス停と駅からの距離、高齢化率等からの一定の定義による、13か所ほどが該当する。路線を定め運行する方法、ドア・ツー・ドアのサービスの方法による解消に分類でき、各方法に適した事業者による移送サービスが考えられる。

現時点では他地域のコミュニティバス運行は考えていない。

コミュニケーションバスの

西 克彦議員(共産) 市の中央地域でのコミュニティバスの試行運行と並行して、西部・東部・南部地域等でのバス運行もワンボックスカー・タイプでの駅間連絡方式などを含めて検討してほしいがどうか。せめて何らかの検討の動きを示すべきと

考えるがどうか。**市長** 今回の初めてのコミュニティバスの運行であり、中央地域の試行運行で、より多くの市民に利用してもらうことが先決と考えており、現時点では他地域については特に考えていない。

コミュニケーションバスを西部地域に運行できないか

立花隆一議員(公ク) 近隣他市のコミュニティバス導入状況について、研究と分析は。今回の試行運行予定ルートは、市の運行のねらいに具体的にどう合致しているのか。

バスの運行が予定されない西部地域など交通不便地域に、今までのような努力をし、今後どのような施策を行うか。**市長** 各市が状況に応じた運行をしており、小平市は小平市に合ったシステムで行いたい。人口、高齢化率等を検討し、小平市コミュニティバス研究会でルートを決めた経過がある。

現時点では、他の地域については特に考えていない。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

苗村洋子議員(緑ネ) 若い世代の人が性について相談できる場所はありますか。実例は。実際に性教育は行われているか。

必要となる情報を取捨選択していく能力を育成していくことは、性情報の点でも重要であるが、育成のために何をしていくのか。**市長** 保健所で相談を受け付けており、10代の相談の実例もあると聞いている。

超えたオープンな議論ができる環境にないことが課題である。**市長** 講座の開催について、検討していく。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは

生涯にわたる女性の健康、性と性に関する自己決定権のこと。すべての職員が電子自治体の意義について理解を深めること等が重要で、今後の体制にはそうした観点から意を用いたい。

インターネットを通じた犯罪や社会問題が急増しているが、ネットワーク犯罪に対する電子上のセキュリティの確立や、情報を読み解く力についての考え方と今後の方針は。**教育長** 注意すべき点や児童生徒が理解して情報を扱えるよう、指導が必要と考えている。

電子メールでの市民の提言を受けとめ、またホームページで情報の発信をしている。セキユリティー対策の統一方針書の策定など対策を充実させ、また青少年の健全育成の観点から講座の開催を検討したい。

小平市ITの

きのう・きょう・あしたの差をどう考えているか。他の自治体と比較して、その差をどう考えているか。市としてのどのような組織でこれからの時代に立ち向かうか。**市長** ホームページの開設を初め、各種の情報化施策を実現してきた。情報提供機能の充実を図っている段階だが、一定の評価を得ていると考えている。

双方向性の情報交換機能等の充実が今以上に必要になってくると考えている。実施の時期に多少の差は生じているが、到達すべき点は同じと考えている。

すべての職員が電子自治体の意義について理解を深めること等が重要で、今後の体制にはそうした観点から意を用いたい。

青年向け政策

加藤俊彦議員(公ク) 小平市として、青年向けの政策をどのように考えているか。青年の考えが、どのような形で生かされ、政策にどのように反映されているか。

青年の文化・芸術活動への支援はどのようしたものがあるか。各種選挙において、青年層の低い投票率が懸念されているが、打開策は。**市長** 青少年育成プランを策定する中で、政策面の方向を示し、諸施策の展開を図っていく。青少年育成プランの策定過程で青年の意識・実態調査等を行い、意見を反映させてきたので、今後の施策の展開の中で生かされると考えている。

中央公民館等に音楽活動やダンスなどができる部屋がある。また、旧小川東小施設に設置予定の青少年センターにおいて、活動の場の提供などを検討していきたい。

選挙管理委員会事務局

選挙管理委員会事務局 啓発活動を工夫していきたい。1人でも多くの市民に投票に行ってもらえるように

育藤 進議員(フォ) 働き盛りの世代や子育て世代、学生

地域に関心を高めるために、候補者の政策がわかるように、選挙公報の候補者のスペースを広くとれないか。

選挙管理委員会事務局

今回、東部・西部の市民センターに不在者投票所を増設する予定だが、駅構内には場所の確保が困難と思われる。考えていない。

一定の限度の中で、候補者の政策等が有権者にわかりやすく掲載できる大きさという観点から、今後研究していきたい。

市職員が健康で働きがいをもって働けるように

西 克彦議員(共産) 学校給食調理員の欠員に、なぜ正規職員を補充しないのか。職員体制の改定に当たり、

現場とどう話し合っているか。正規職員のやる気と責任感を尊重しているか。

臨時職員は研修やマニュアル等はどうしているか。安全衛生委員会では現場を把握しているか。委員会開催は規程では月1回だが実態は。他市も参考に、委員会の体制等を抜本的に改善すべきでは。

臨時職員で対応しているため、臨時職員で対応している。調理員部会等に説明したほか、現地調査等を行った。また、調理員は力量を問われ、より存在が尊重されるものと考えている。研修等は基本的に配置校で行い、マニュアルは栄養士等と同じ物を配付している。

市長 必要に応じて実態把握をしており、例年、年1回開催している。あり方については、時代に合った運営を心がけている。



選挙啓発のぼりや投票日をPR